

<解答例>

【課題1】

大量の(水分)を(蒸発)させなければならないこと(「水分」は「水」でもよい。)

【課題2】

日本は乾燥している気候ではない。また広い土地がないから。

【課題3】

記号の順：(エ) → (イ) → (ア) → (ウ)

説明の例：

まず海水を運んできて、砂にまく。

(乾かして、再度まく作業を繰り返す。)

砂が乾いた後、その砂をかき集める。

集めた砂に海水をかけて、塩を溶かし出す。

濃くなった海水を煮つめて、水分を蒸発させる。

【課題4】

①、②からは、**塩を溶かした川の水が死海に流れ込む**と考えられるため、湖の塩の量が増えると言える。

③からは、**水が死海から流れ出ない**と考えられるため、湖の塩の量が減ることはないと言える。

④からは、**乾燥した気候で水分が蒸発する**と考えられるため、水分量が減り、塩分が濃くなったと言える。

以上のことから、死海が塩分のとても濃い湖になったと考えられる。

## 【課題5】

- ・メキシコでは天日製塩をしているところが多い。そのため、乾燥した地域が多いと考えられる。
- ・南アメリカ大陸の西側には塩湖塩原がいくつかある。そのため、このあたりは昔、地形が大きく変わったことがある（もともと海だったのではないか）と考えられる。
- ・アメリカとカナダの国境付近には岩塩が採れるところが集まっている。そのため、昔、地形が大きく変わったことがあると考えられる。
- ・両大陸の西側に天日製塩をしているところが多い。東側より西側の方が乾燥しているのではないかと考えられる。
- ・アメリカでは岩塩が採れるところが多い。そのため、塩の生産量が多い国だと考えられる。
- ・アメリカ南部沿岸では岩塩採掘が盛ん。天日製塩もできるように思うが、実際に行っていないのは、十分な量を岩塩で得られるからではないか。
- ・南アメリカ大陸の西側には塩の得られる場所が集まっている。
- ・北の方では塩は得られない。